

稲沢市農業再生協議会（愛知県稲沢市）

組織の概要

- 稲沢市、JA愛知西、農業委員会、農業共済組合、土地改良区が構成員となり、H24年に設立。
- 農家数2,992戸（R2年センサス）（うち、水田麦・大豆産地生産性向上事業の受益農業者数は、8経営体）
- 飼料用米を主な転作作物としているところ、団地化の進展による水管理等の課題解決と併せて、H30年から取り組んでいる小麦生産について、作付拡大を推進。

生産概要

- 【作付面積】水稲：1,157ha、小麦：50ha、飼料用米：416ha（R3年）
- 水稲との作業競合を避けるため、小麦の大半は小麦単作の水田で作付け。小麦作はH30から開始し、作付面積は年々増加。
（R元年：23.4ha → R3年：50.3ha → R4年：75.0ha）
- 品種は、愛知県統一銘柄の日本麺用品種「きぬあかり」とパン・中華麺用品種「ゆめあかり」を作付け。

取組のポイント

<需要に応じた小麦生産の取組>

- 実需者との意見交換等を通じてJAあいち経済連が把握した品種ごとの需要量を踏まえ、「きぬあかり」、「ゆめあかり」を適切な配分で作付け。

<生産性向上に向けた営農技術及び農業機械の導入>

- 地域の中心的な生産者において、シーダー、コンバイン、排水対策に係る機械等21台を導入することで効率的な麦生産を実現し、作付面積の拡大を図る。
- 産地の新たな取組として、土壌診断に基づく土壌改良材の施用や心土破碎による湿害対策を大半の農地で実施し、安定生産と収量の向上を目指す。
- ドローン防除の面積を大幅に増大させ、適期における効率的な防除と省力化を図る。



<コンバイン導入による作付面積拡大>



<ドローン防除による適期防除・省力化>

取組成果

<小麦生産の高位安定化の実現>

- 作付面積の増加
R3：50.3ha ⇒ R4：75.0ha（49.1%増）
〔R7目標：115.0ha〕
- 団地化面積の増加
R3：44.8ha ⇒ R4：48.5ha（8.3%増）
〔R7目標：108.1ha〕
- 単収の向上
R3：604kg/10a ⇒ R4：622kg/10a（3.0%増）

